

母性看護学援助論	2年・後期	1単位 15時間	助教 倉林 梢 他
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33310852

1. 授業のねらい・概要

本科目は、学生が産褥期における褥婦の身体的・心理的・社会的特徴をふまえウェルネスの視点で看護を理解し、必要な看護技術を習得すること。また新生児の生理的特徴や異常を理解した上で必要な看護技術を習得し、看護を展開する方法を理解できるようになることを目的とする。

2. 学修の到達目標

1. 紙面上で褥婦に対する看護過程の展開ができる。(D-2)
2. 紙面上で新生児に対する看護過程の展開ができる。(D-2)
3. 産褥早期の褥婦の看護に必要な技術(子宮復古の観察, 悪露の観察, 授乳支援, 等)を実施できる。(D-2)
4. 新生児の看護に必要な技術(バイタルサイン測定, 沐浴, おむつ交換, 等)を実施できる。(D-2)

3. 授業の進め方

看護過程の展開は講義とグループワークを中心に行い、看護過程発表会を実施する。演習は数名の学生で編成したグループ単位で行う。

【アクティブ・ラーニング実施の有無】

グループワークを中心に模擬事例を通して看護過程を展開する。授業の最後にリフレクションを毎回行う。

【ICT活用の有無】

ICT活用の実施: Classroom等による学習課題の提示や提出等。

4. 授業計画(講義・演習)

回	授業内容	授業形態	事前事後学修(学修課題)	担当
1	ウェルネスの看護過程とマタニティ診断 事例展開の説明	講義	予習: リプロダクティブヘルスの講義資料を熟読しておく。教科書①p225～226, 「褥婦のアセスメントと看護」を読む。教科書②iii～xxiiiを読む。 復習: ウェルネスの視点で対象をとらえることについて授業資料を振り返る。事例の妊娠・分娩期のアセスメントから産褥期に影響する要因を考える。	倉林梢 堀金幸栄
2	看護過程の展開①: 産褥期 グループ討議: 妊娠・分娩期の評価と産褥期の身体面・心理面・母親役割・家族役割のアセスメントと看護診断 アウトライン発表	演習	予習: 教科書①p244～249「母親になる過程へのアセスメント」を読み, 事例についてアセスメントし, 教科書②を参考に診断する。シートに各自記載してグループワークに臨む。 復習: グループ討議の結果を踏まえ, 褥婦のアセスメントについてシートにまとめる。	倉林 堀金

3	看護過程の展開②：産褥期・新生児期 グループ討議：産褥期の看護計画の立案 新生児期の生理的変化のアセスメント アウトライン発表	演習	予習：産褥期のアセスメントと看護診断から必要な看護を計画する。教科書① p 308～314, 「新生児のアセスメント」を読む。事例についてアセスメントし、教科書②を参考に診断する。シートに各自記載してグループワークに臨む。 復習：グループ討議の結果を踏まえ、産褥期の看護計画と新生児期のアセスメントについてシートにまとめる。	倉林堀金
4	看護過程の展開③：新生児期 グループ討議：胎児期の発達評価と新生児期の生理的変化のアセスメントと看護診断・看護計画の立案 アウトライン発表 演習内容・課題の説明	演習	予習：新生児期のアセスメントと看護診断から必要な看護を計画する。シートに各自記載してグループワークに臨む。 復習：グループ討議の結果を踏まえ、新生児期のアセスメントと看護計画についてシートにまとめる。	倉林堀金
5	演習：周産期の看護技術	演習	予習：演習前事前課題に取り組む。教科書③p293～302「産褥復古の観察」、p337～342「悪露交換」、p392～397「新生児のケア バイタルサイン」を読む。テキスト「母性看護技術」の動画視聴を行う。 復習：演習後課題に取り組む。	倉林堀金 他
6	演習：周産期の看護技術	演習	予習：演習前事前課題に取り組む。教科書③p293～302「産褥復古の観察」、p337～342「悪露交換」、p392～397「新生児のケア バイタルサイン」を読む。テキスト「母性看護技術」の動画視聴を行う。 復習：演習後課題に取り組む。	倉林堀金 他
7	演習：看護過程の発表とまとめ 産褥期	演習	予習：グループで発表できるよう準備する。 復習：発表やディスカッションを通してグループのアセスメントや看護計画の追加や修正を行う。	倉林堀金
8	演習：看護過程の発表とまとめ 新生児期	演習	予習：グループで発表できるよう準備する。 復習：発表やディスカッションを通してグループのアセスメントや看護計画の追加や修正を行う。	倉林堀金

5. 成績評価の方法・基準

成績評価を受けるためには3分の2以上の出席が必要である。看護過程の発表と課題レポートを合わせて100%で評価する。看護過程の成績はグループ評価とする。評価対象物は、「2. 学修の到達目標」に示した達成状況を、ルーブリック評価表を基に、5段階評価で採点する。尚、ルーブリック評価表に関する詳細は、第1回講義内で別途説明する。

課題レポートの配点内訳は、課題①看護過程（70%）、課題②演習事前課題・事後課題（30%）とし、課題詳細・メッセ・提出場所等は、講義内で資料を提示する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：1) 小林康江 他 (2024) ナーシング・グラフィカ 母性看護の実践 (第3版) メディカ出版

2) 日本助産診断実践学会 (2020) マタニティ診断ガイドブック (第6版) 医学書院

7. 準備学習に必要な時間, 又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

シラバスの授業計画の範囲について, 最低 90 分以上の予習及び授業内容について, 90 分以上の復習を行うこと。

8. 受講上の留意事項

グループワークに向けて各自準備をしてから望むこと。グループワークは主体的, 協同的に行うこと。

演習は動画を繰り返し視聴して, 必要な看護技術の手技を確実に覚えて演習に臨むこと。

遅刻, 欠席ならびに授業中の私語, 授業に関係ない言動 (携帯電話使用等) は慎むこと。

講義時間開始語の無断で教室の入室および退室は慎むこと。

9. 課題に対するフィードバックの方法

看護過程の課題に対する疑問にはその都度助言する。看護過程の発表に対しては口頭でフィードバックする。提出された演習課題は教員が内容を確認して返却する。演習後の課題は返却しない。内容に不備のある者は再提出を求めることがある。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり, 修得できない場合進級不可となる。

11. 該当する本授業は, 以下の実務経験を活かして実施される

医療機関における助産師としての実務経験を活かして, 講義・演習を行う。